

平成23年度

橋梁技術発表会及び講演会

— 鋼橋技術の進化と継承 —

平成23年

日時

11

8

火

13:10~17:05

参加費無料
定員200名
申込先着順

会場 仙台国際センター2F 萩

〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地

Tel.022-265-2211

13:10~13:20

開会の辞

社団法人日本橋梁建設協会
副会長・専務理事 中島 威夫

13:20~13:50

橋建協報告

東日本大震災 被害調査報告

東日本大震災復興対策本部

申込方法

①Fax. 022-262-4855(裏面の用紙に記載)

②ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>

の「技術発表会申し込み受付」まで(受付は9月上旬から)

申込期限

平成23年10月28日(金)

連絡先

社団法人 日本橋梁建設協会 東北事務所

〒980-0021 仙台市青葉区中央1-6-35(東京建物仙台ビル)

川田工業内 TEL 022-262-4855

継続教育

CPDS認定予定

※東京地区は 10月14日(金) (銀座プロッサムホール)

大阪地区は 10月28日(金) (ドーンセンター)

中部地区は 11月15日(火) (東建ホール・丸の内)

九州地区は 11月25日(金) (福岡商工会議所)開催です。

申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

発表原稿のPPTはホームページに掲載しますので、
ご希望のかたはダウンロードするをお願いします。

第1部:技術発表会

13:50~14:30

1.支承部の損傷と対策事例

—経年劣化から地震による被害まで—

保全委員会 保全技術小委員会 柿沼 努

14:30~15:10

2.Huey P. Long橋(米国・ルイジアナ州)
工事報告

—トラス橋拡張(新旧トラスの一体化)工事における
製作・架設・プロジェクト運営について—

企画委員会 国際小委員会 得地 智信

15:10~15:20

休憩

15:20~16:00

3.鋼構造物の耐久性向上に関する
取り組みについて

技術委員会 製作小委員会 大庭 哲也

第2部:特別講演会

16:00~17:00

1.「東日本大震災」の対応について



国土交通省
東北地方整備局 企画部
企画調整官 池口 正晃

17:00~17:05

閉会の辞

橋梁技術発表会実行委員会

アクセス



●仙台駅西口/バスプール9番乗り場より「仙台国際センター」行き、
「博物館国際センター前」下車(バス移動約10分、徒歩約1分)
710(宮教大・青葉台)、713(宮教大・成田山)、715(宮教大)、
719「動物公園循環(青葉通・工学部経由)」、720「交通公園・川内営業所」
のいずれかにお乗りください。

1 支承部の損傷と対策事例

一経年劣化から地震による被害まで一

橋梁の支承は、上・下部構造の接点で上部構造の荷重を円滑に下部構造に伝え、構造物全体の機能を発揮させ、安全性を確保する上で重要な役割を果たすものです。しかし、常時、移動・回転を繰り返す過酷な部材である上に桁端の狭い箇所に位置し、また地震の影響を大きく受けるため、最も損傷例が多い箇所でもあります。

本報告では、橋梁の安全性の鍵を握る支承について、経年劣化から地震による被害まで、その損傷および対策事例を紹介します。

2 Huey P. Long橋(米国・ルイジアナ州)工事報告

一トラス橋拡幅(新旧トラスの一体化)工事における製作・架設・プロジェクト運営について一

Huey P. Long橋はアメリカ南部のルイジアナ州ニューオーリンズ近郊に位置しており、1935年に供用開始された鉄道路路併用橋梁で3径間連続カンチレバートラス橋と単純トラス橋からなる。本工事は、老朽化した既存トラス橋を補強し且つ新トラスを既存トラスと一体化させ拡幅を図るものである。本報告では拡幅工事の特徴や問題点を中心に、製作・架設・プロジェクト運営等に関しアメリカと日本との違いを含めて紹介する。

3 鋼構造物の耐久性向上に関する取り組みについて

鋼構造物の耐久性向上に対する要求が高いことおよび維持管理コストを低減することを目的として、(社)日本橋梁建設協会では、防食方法の耐久性に関する検討を行っている。鋼構造物(鋼製橋梁)に対する代表的な防食方法である塗装・金属溶射の耐久性検証を目的として、沖縄県(大宜味村)、三重県(亀山市)、石川県(金沢市)、秋田県(男鹿市)の暴露試験場において、継続的な試験・観察を行ってきている。本報告では、(社)日本橋梁建設協会 防食部会の耐久性に関する取り組みを紹介することとする。

特別講演会

1 東日本大震災の対応について

池口 正晃

国土交通省
東北地方整備局 企画部
企画調整官

一略歴一

平成6年 建設省入省
土木研究所道路部トンネル研究室研究員
平成17年 道路局企画課課長補佐
平成19年 道路局有料道路課課長補佐
平成20年 福島河川国道事務所 所長
平成22年 現職

講演概要

通常の災害においては応急復旧→本復旧の流れだが、東日本大震災の場合は、応急復旧の前の救援ルートを確保する「啓開」が追加され、さらに津波により沿岸自治体が大被害を受けたことに対応して、異例ながら「自治体・被災者支援」も本格的に実施した。

「啓開」については、県・自衛隊と連携し、東北道・国道4号から津波で被害が甚大な三陸地区へアクセスする「くしの歯型」の救援ルートを確保する「くしの歯作戦」を実施し、3/12までに東西ルート16本のうち11ルート、3/15までに15ルートを啓開した。

「自治体・被災者支援」については、全国の整備局の応援による排水ポンプ車、衛星通信車等の災害対策機械の配備(ピーク時192台)、自治体ニーズの的確な把握と対応を行うリエソンの派遣(ピーク時96名)等を実施した。

FAX番号:022-262-4855

平成23年度

橋梁技術発表会
[東北地区]

参加申込書

所 属

団体名

所属

氏 名

役職

氏名

住 所

電話番号

FAX番号

E-mail

前回参加の有無 有 ・ 無